



きよくり NEWS

CONTENTS

- ・きよくりNEWSを読んで
- ・思春期学会に参加して
- ・オフタイム
「秋の収穫祭」



VOL. 43
2015.11 発行

Muraguchi Kiyoyuki Women's Clinic

きよくりNEWSを読んで

～もっと早く知っていたかった「女性の健康とは何か」～ 寄稿 小林セツさん

体のあちこちに発生する不調や違和感は、老年期を迎えるまでは考えが及ばないことでした。多くは生活習慣や加齢によるものと診断されました。健康についての知識を持っていたら予防できたのです。「きよくりNEWS」はこのことに気づかせてくれました。

「きよくりNEWS」はクリニックの開院から10年目の2008年に創刊され、42号に達しています。創刊号には「よりよい医療を提供するための医療者と女性、時には男性の患者を繋ぐツールに育てたい」とありました。長期にわたって継続して発行されています。目的は達成されていると思います。

自己を主体的に生きていく女性であってほしい。そのために、自分の身体や自分を取り巻く環境を知り、自己をコントロールできる能力を獲得してほしい。という村口先生の思いが、若い女性を対象にした医療を選択させ、多方面にわたる市民活動、大学などでの教育活動を精力的に続ける原動力になり、NEWSのポリシーにもなっていると感じました。

クリニックで得られたデータを整理・考察し、学会などで発表したとの報告も沢山ありました。「知は現場にある」との言葉通り、小さなクリニックで得られるデータから社会の変化を感知しておりました。スタッフが学会やセミナーへ参加することで、医療従事者としての力量を高めていることが紙面からも推察されて頼もしく感じました。

緊張感のある職場かと想像しますが、クリニックの行事や、スタッフの方々の生活を垣間見せ、紙面のオアシスになっています。私が教えられ、考えさせられたのは「子宮がん」と「性」の問題でした。

祖母は「子宮がんになったが、仙台の大学病院で手術してもらい助かった。おかげで長生きできた。」と、がんからの生還を奇跡として話していました。医学の進歩により、がんは早期発見で治る病気になりました。本紙からは、子宮頸がんの検査方法の進歩により、検査精度がほぼ100%になったこと。2013年より予防ワクチンが定期接種になり、予防できる唯一のがんになったこと。しかし、接種後疼痛を訴える人が続出したため接種の勧奨を休止している。安全性は確認されているので、勧奨を再開すべきだという根拠まで、整理して知ることができました。

最近、「勧奨の再開は再度中止されたとの新聞報道には、接種対象者は小6から高1までの若い学生で、リスクは低いと言われても不安を抱くのも当然である。患者の死亡率を下げるためには、現状では、検診率の向上を図る方が有効である」という記事（朝日9.5）もあり、検討の余地があるように感じました。

「性」に関連することでは、①「日常化され、今、消極化へ向かう若者の性」、②「気になるセックスストレス夫婦のゆくえ」、③「性の多様な個性を受け入れられるように」などの記事が目にとまりました。

社会環境の変化は家族の形態を変え、その機能を縮小させています。そのような中で、私的な領域での人との関わりは重要になってきます。セクシュアリティを含めた親密性の構築が欠かせないものとなり、そのためのコミュニケーション能力が要求される時代になったと思っています。

「きよくりNEWS」は「女性の健康とは何か」を教えてください。今の私には手遅れだと反省することが多いのですが、若い人たちに正しい知識を届けるようにしようと思います。これからも期待しております。



思春期学会に参加して

～思春期医療に関わる者としての自覚を持って～

看護師 早坂恵



8月29日、30日と、滋賀県で開催された第34回日本思春期学会に参加しました。

日本思春期学会とは、思春期男女の健康を守り、健全な発達を促すために、多くの領域の医師や看護職、教員、養護教諭、心理・福祉関係等、思春期に関わる様々な職種の学会員が集い、思春期に関する研究、知識の普及を目的として、毎年開催されているものです。今回のメインテーマは「命の大切さについて考える」でした。

学会の始まりとなった特別講演では、童謡詩人、金子みすゞさんの生涯とその作品に触れながら、「生命の尊厳」や「目には見えないところに大切なことがある」など、思春期教育にとっても大切なことを、「美しい風景」や「優しさと寂しさ」「喜びと悲しみ」が表れた作品から学び、最後に行われた特別企画では、尾木直樹氏、通称「尾木ママ」による「いじめ防止教育とは何か」という、いじめの現場に第一線で関わっている方のとても貴重なお話を聞く機会となりました。また、今回の学会で私が印象に残っているのは、性暴力や性虐待の現状でした。性暴力や性虐待は、表面化されにくいのですが、確実に増えているということでした。2010年、大阪に日本で初めての性暴力救援センター（SACHICO）が開設され、過去の5年間で初診の性暴力被害者は983人でした。うち性虐待被害者は213人であり、その多くは児童相談所に一時保護されてから連れて来られた12～14歳の中学生が中心だったそうです。加害者は父親にあたる人が61%を占めたという現状に、測り知れないものを感じました。

今回当院では「思春期における妊娠や出産の現状」について発表しました。性虐待、妊娠や出産、内容は違いますが、抱えている問題や必要とされる支援は共通していることが多いと感じました。それは大阪に関わらずどの地域も抱える問題であり、日常からかけ離れたことではなく、身近なものであることを再認識しました。

今回の学会で学んだこと、そして、日々の診療の中で感じていることや気付かされたことを大切にしながら、思春期医療に関わる者として、自覚を持って関わっていきたいと思います。



懇親会では琵琶湖クルーズを楽しみました

私のオフタイム ～秋の収穫祭～

看護師 菊地香織

私の休日は娘中心の一日です。娘には色々な体験や経験をさせたい！ そんな体験の一つに、おじいちゃんの趣味である畑作業を一緒に行うことがあります。野菜は「スーパーに売っているもの」というだけではなく、作る過程の大変さや収穫の喜びも学んでほしいと苗や植えから作業します。

先日、育てたさつま芋の収穫をしてきました。土を掘り、芋を引っ張り、娘の足よりも太い芋をたくさん収穫することができました。この後、大根、人参と控えています。



臨時休診

編集後記

- 12月9日（水）の午後は
クリニックの都合により
- 12月27日（日）～
1月3日（日）までは
年末年始のため
休診となりますのでご了承
ください。

今年最後のきよくりNEWSとなりました。
記録的な猛暑だった夏から一気に秋に変わり、急に寒くなりましたね。
色づく紅葉を見るのが毎年の楽しみです。
風邪が流行り始める季節ですので、みなさま、どうぞ体調管理には気を
つけてお過ごしください ☺



発行元：村口きよ女性クリニック
http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp